

# 鹿屋寺子屋かわら版

令和7年6月30日発行 第46号

## 「鹿屋寺子屋事業」の概要について

先月は、寺子屋事業の目的をお示ししました。今回は事業の概要について説明します。

- 1 学習活動（自学自習）及び体験活動について
  - (1) 学習活動（自学自習）は、原則週1回実施し午後3時から午後6時の3時間程度とする。
  - (2) 体験活動は、原則月1回、休日等の3時間程度とする。ただし、実態に応じて、開設時間等を変更する場合があります。
- 2 指導員の配置等について
  - (1) 指導員は原則2人体制とし、学習活動（自学自習）の見守り・指導を行う。また、準備から後片付け、保護者の迎えまでを見届けることになるが（概ね午後2時30分から午後6時30分まで）、寺子屋の実態に応じて対応する。
  - (2) 指導員は、公民館職員と連携を図り、年間活動計画の立案、体験活動等の講師の依頼を行う。  
※ 指導員= 子どもの活動に関わる全ての大人（見守り、学習指導、体験活動講師など協力できる地域住民や退職校長先生方）
- 3 対象及び定員について  
対象は小学生とする。定員は20人程度とするが、各寺子屋の実態に応じて設定する。
- 4 その他
  - (1) 寺子屋への行き帰り（徒歩・送迎）については、原則保護者の責任のもと行う。
  - (2) 学校・地域と協力しながら様々な形態の寺子屋開設に努め、市内全域に充実・拡大する。（かのや地域学校協働活動の活性化）

### はなおか未来塾 ～開講式～

#### 【児童の感想】

今日、初めて「はなおか未来塾」に来て、友だちができた。宿題をしたり、外で遊んだりして楽しかった。

#### 【指導員の感想】

新入生が5人でした。開講式では、校長先生のお話もいただけた。子どもたちもしっかり自己紹介ができました。静かに宿題を終えた後は、外で15分間のドッジボールを行った。みんなで元気に走り回り、楽しそうだった。



### りりし田崎塾 ～開講式～

#### 【児童の感想】

久しぶりの塾だったけど前と変わらずやさしい先生たちや新しい先生もいました。宿題も半分以上終わらせることができたし、休み時間も楽しかったです。

#### 【指導員の感想】

36人という大人数の塾生を迎えて、令和7年度の「りりし田崎塾」が始まった。田崎小の校長先生、保護者の出席を得て、開講式も無事終了。5人の指導員が心をつなぐ塾生の成長を目指して一杯努めたい。

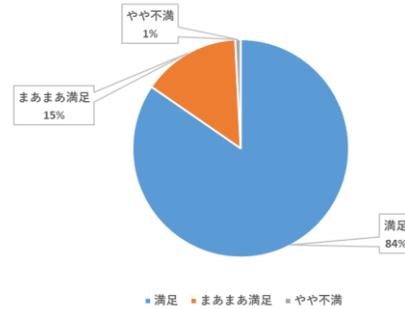


## アンケート結果から（令和6年度末実施）

前回に引き続き、昨年度末に実施した、寺子屋事業に関するアンケート結果をお知らせします。今回は保護者と指導員の方の概要です。

### 保護者アンケート

質問：寺子屋の活動に満足していますか。

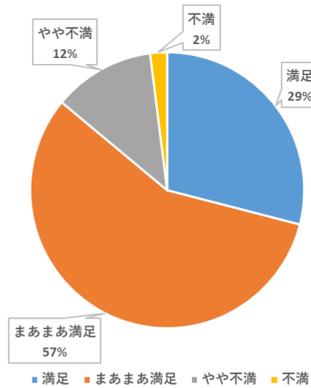


「寺子屋の活動には満足していますか。」の回答は、「満足」「まあまあ満足」を合わせて99%でした。主な理由として次のようなご意見が多かったです。

- 親に言われなくても机に向かう時間が増えた。
- 異学年の子との関わりがある事で、人との接し方等少しずつ対応できるようになった。
- 地域の方々とのふれ合いがあるため、目には見えないが、成長していると感じることがある。

### 指導員アンケート

質問：指導員としての満足度は？



「指導員としての満足度は？」の回答は、「満足」「まあまあ満足」を合わせて86%でした。主な理由として次のようなご意見が多かったです。

- 子どもたちとコミュニケーションが取れた。
- 子どもたちが成長する様子を間近で見ることができた。
- 当初は学習意欲に欠けていた子どもも友達が宿題をしている様子を見てできるようになった。
- 宿題を早くさせているいろいろな話を聞かせてくれてとても嬉しかったです。

「寺子屋で見守り 逆元氣もらう」  
今年も鹿屋寺子屋事業がスタートした。開講式に出席した。開講式がひまわり塾と名付けられていた。塾生の小学生一人一人が自己紹介をした。聞きながら地域の子を見守り役である私も、この1年間一緒に楽しみたい。寺子屋を利用する子どもたちは、学校から公民館を直接訪れる。それぞれ宿題のプリントや宅習に取りかかるとも、子ども達の真剣な姿を目にした。思いをはせた。折り返しをしたら、折り紙やお手玉、あやとりなどの昔の懐かしい遊びを一緒に楽しむ。午後6時に迎えに来る保護者に連れられ、手を振りながら家路を急ぐ子どもたちがいた。私たち高齢者が見守り役になり、地域へ恩返しを少しさせてもらっている。同時に自分も元気になる。見守り活動への参加も早いもので6年目を迎える。今年もやる気に満ちている。

上記の文章は、西原台ひまわり塾の指導員の「釜付和江さん」の新聞投稿です。令和7年6月12日の南日本新聞のひろは欄に掲載されました。ご本人の了承を得て、ここに載せています。子どもたち一人一人を優しいまなざしで見守っている気持ちが伝わってきます。また、「地域への恩返しをしながら同時に元氣をもらっている」ことから、寺子屋事業が「地域づくり」「つながりづくり」の場になっていることが分かります。